

九州北部地方（山口県を含む）の8月は 記録的な多雨となりました

1. 九州北部地方（山口県を含む）では、110^{※1}地点中 78 地点で、8月の月降水量が統計開始以降、最も多くなりました。

特に大牟田（福岡県）や嬉野（佐賀県）、菊池（熊本県）などでは、8月としては平年の5倍を超えたほか、佐賀（佐賀県）と雲仙岳（長崎県）などでは、通年としても過去最多の降水量となりました。（別紙1～5参照）

2. 九州北部地方（山口県を含む）における8月の地域平均降水量平年比^{※2}は、統計開始（1946年）以降、最も多くなりました。

	今年 2021年	これまでの1位 1980年	これまでの2位 1993年	昨年 2020年
8月の 平年比 (%)	396	276	246	42

経年変化等は、別紙6を参照してください。

3. 降水量が多かった要因は、前線帯に沿って、中国大陆から流れ込む湿った空気と太平洋高気圧の縁辺を流れる南からの湿った空気が、日本付近で合流しやすい状況が続いたためと考えられます。（別紙7参照）

※1 九州北部地方（山口県を含む）の観測地点のうち、統計期間が10年以上ある観測所を対象としています。

※2 地域平均降水量平年比は、いつもの年（平年値：1991～2020年の平均）と比べてどのくらい多い・少ないかを地域全体でみるもので、統計期間が50年以上ある観測所を対象としています。九州北部地方（山口県を含む）では、萩、山口、下関、福岡、飯塚、佐賀、厳原、平戸、佐世保、長崎、雲仙岳、福江、熊本、人吉、牛深、大分、日田の17地点における降水量の平年比を平均して算出しています。

問合せ先：福岡管区気象台気象防災部

観測値について：防災調査課（蛇嶋^{へびしま}） 092-725-3614

要因について：地球環境・海洋課（川口） 092-725-3613

表1 8月の月降水量の多い方からの極値を更新した地点
(統計期間が10年以上の観測所を対象) 山口県、福岡県

県 (地点数)	観測地点	月降水量 (mm)	平年値 (mm)	平年比 (%)	8月の これまでの1位		統計開始年
					月降水量 (mm)	年	
山口 (14)	羅漢山	857.0	248.1	345	653	1993	1976
	徳佐	732.0	201.5	363	660	1993	1976
	下関	711.0	190.0	374	653.0	1980	1883
	和田	706.5	195.1	362	505	2004	1978
	鹿野	702.5	217.7	323	467.0	2019	2010
	篠生	688.5	216.2	318	617	1993	1981
	広瀬	684.0	207.7	329	539	1993	1976
	宇部	654.0	131.3	498	590	1980	1976
	山口	623.5	205.8	303	549.5	1993	1966
	東厚保	582.5	203.6	286	474.5	2019	2010
	柳井	578.5	126.9	456	481	1980	1976
	岩国	560.0	154.9	362	553.5	2014	1976
	玖珂	556.0	166.4	334	538.5	2014	1977
	安下庄	468.5	117.1	400	428	1980	1976
福岡 (16)	早良脇山	1289.5	311.7	414	773.5	2019	2010
	大牟田	1251.0	212.6	588	755	1980	1976
	黒木	1172.0	227.1	516	721	1980	1976
	久留米	1137.0	227.7	499	702	1980	1977
	耳納山	1133.0	226.0	501	616.5	2019	1976
	柳川	1114.5	198.3	562	692	1980	1976
	英彦山	1103.0	288.4	382	692.5	2019	1989
	太宰府	1067.0	237.0	450	736	1980	1977
	飯塚	984.0	209.6	469	734.0	1980	1936
	添田	961.0	213.8	449	801	1980	1976
	朝倉	921.0	206.9	445	676	1980	1976
	博多	905.0	246.9	367	484.0	2008	2003
	福岡	881.5	210.0	420	846.5	1980	1890
	八幡	748.5	198.1	378	654	1980	1976
	宗像	693.0	177.1	391	645	1980	1976
	空港北町	624.0	163.1	383	376	2006	2006

太字は、年間を通じて月降水量の多い方からの極値を更新した地点を示す。
一部の観測所では2007年までは1mm単位で観測。

表2 8月の月降水量の多い方からの極値を更新した地点
(統計期間が10年以上の観測所を対象) 佐賀県、長崎県

県 (地点数)	観測地 点	月降水量 (mm)	平年値 (mm)	平年比 (%)	8月の これまでの1位		統計開始年
					月降水量 (mm)	年	
佐賀 (8)	嬉野	1478.0	277.7	532	875	1980	1977
	鳥栖	1246.5	279.9	445	694.0	2019	2010
	佐賀	1220.5)	252.4	484	754.0	2019	1890
	北山	1166.0	342.3	341	774.5	2019	2010
	伊万里	1155.0	272.0	425	896	1980	1976
	唐津	1085.5	314.1	346	725.0	2013	2010
	白石	1066.0	219.4	486	678	1980	1976
	川副	937.0	212.5	441	537.5	2019	2003
長崎 (14)	雲仙岳	1587.5	314.4	505	892.6	1949	1924
	長浦岳	1343.5	277.5	484	704.0	2014	1976
	諫早	1273.0	251.1	507	558.0	2014	1976
	松浦	1209.5	364.7	332	788.0	2013	2011
	島原	1103.5	207.4	532	378.5	2015	2006
	平戸	1075.0	289.1	372	898.5	1980	1940
	佐世保	989.5	255.4	387	754.0	2014	1947
	福江	961.5	239.6	401	617.0	1963	1962
	口之津	940.5	180.7	520	586	1987	1976
	長崎	935.0	217.9	429	720.9	1927	1878
	有川	887.0	251.3	353	508.5	2014	1977
	上大津	873.0	201.1	434	449.5	2014	2003
	大村	790.5	221.1	358	532.0	2019	1976
	美津島	443.0	249.2	178	443	2007	2003

太字は、年間を通じて月降水量の多い方からの極値を更新した地点を示す。
値の横に) がある場合は、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができる。一部の観測所では2007年までは1mm単位で観測。

表3 8月の月降水量の多い方からの極値を更新した地点
(統計期間が10年以上の観測所を対象) 熊本県、大分県

県 (地点数)	観測地点	月降水量 (mm)	平年値 (mm)	平年比 (%)	8月の これまでの1位		統計開始年
					月降水量 (mm)	年	
熊本 (18)	鹿北	1297.0	233.2	556	838	1980	1976
	益城	1099.5	195.6	562	436.0	2013	1976
	菊池	1052.5	181.8	579	845	1980	1976
	山都	1023.0	234.0	437	429.0	2019	2010
	熊本	1002.5	195.4	513	879.0	1963	1890
	山江	1002.0	285.5	351	963	1993	1991
	本渡	975.5	215.0	454	735	1993	1976
	岱明	911.5	180.7	504	753	1980	1976
	三角	904.0	181.6	498	635.0	2013	1976
	一勝地	888.5	239.3	371	485.5	2015	2006
	人吉	883.0	226.3	390	778.0	1993	1943
	宇土	877.0	198.9	441	511.5	2013	2006
	甲佐	876.0	190.0	461	502	1993	1976
	松島	869.5	199.4	436	705	1993	1976
	田浦	823.0	204.6	402	819	1993	1976
	牛深	809.0	200.7	403	666.5	1993	1949
	多良木	776.5	239.8	324	400.0	2014	2006
	八代	746.5	203.7	366	623.5	2011	1976
大分 (8)	椿ヶ鼻	1212.0	324.3	374	665.0	2019	2005
	耶馬溪	823.0	176.1	467	661	1980	1976
	日田	808.0	189.1	427	595.5	1980	1942
	玖珠	718.0	195.3	368	675	1980	1976
	中津	633.0	146.0	434	363.5	2019	2011
	蒲江	611.5	230.9	265	568	1980	1976
	杵築	567.5	135.4	419	421	1999	1978
	武蔵	406.0	130.0	312	336	2003	1976

太字は、年間を通じて月降水量の多い方からの極値を更新した地点を示す。

一部の観測所では2007年までは1mm単位で観測。

表 4 通年の月降水量の多い方からの極値を更新した地点
(統計期間が10年以上の観測所を対象)

県	観測地点	2021年8月 の月降水量 (mm)	年間を通じて これまでの1位		統計開始年
			月降水量 (mm)	年月	
福岡	早良脇山	1289.5	836.5	2020年7月	2010
	太宰府	1067.0	905	1980年7月	1977
	飯塚	984.0	965.1	1953年6月	1935
	博多	905.0	747.5	2009年7月	2003
佐賀	嬉野	1478.0	1094.0	2020年7月	1977
	佐賀	1220.5)	1086.0	2020年7月	1890
	北山	1166.0	1153.5	2020年7月	2010
	伊万里	1155.0	1025.0	2020年7月	1976
	唐津	1085.5	815.5	2020年7月	2010
	白石	1066.0	880.5	2020年7月	1976
長崎	雲仙岳	1587.5	1579.5	1982年7月	1924
	長浦岳	1343.5	1230	1982年7月	1976
	諫早	1273.0	1157.0	2020年7月	1976
	松浦	1209.5	949.0	2020年7月	2011
	島原	1103.5	1011.5	2020年7月	2006
	福江	961.5	872.5	1987年7月	1962
	上大津	873.0	658.0	2019年7月	2003
熊本	益城	1099.5	1002.0	2011年6月	1976
	菊池	1052.5	1005.0	2020年7月	1976
	宇土	877.0	872.5	2011年6月	2006

値の横に) がある場合は、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができる。一部の観測所では2007年までは1mm単位で観測。

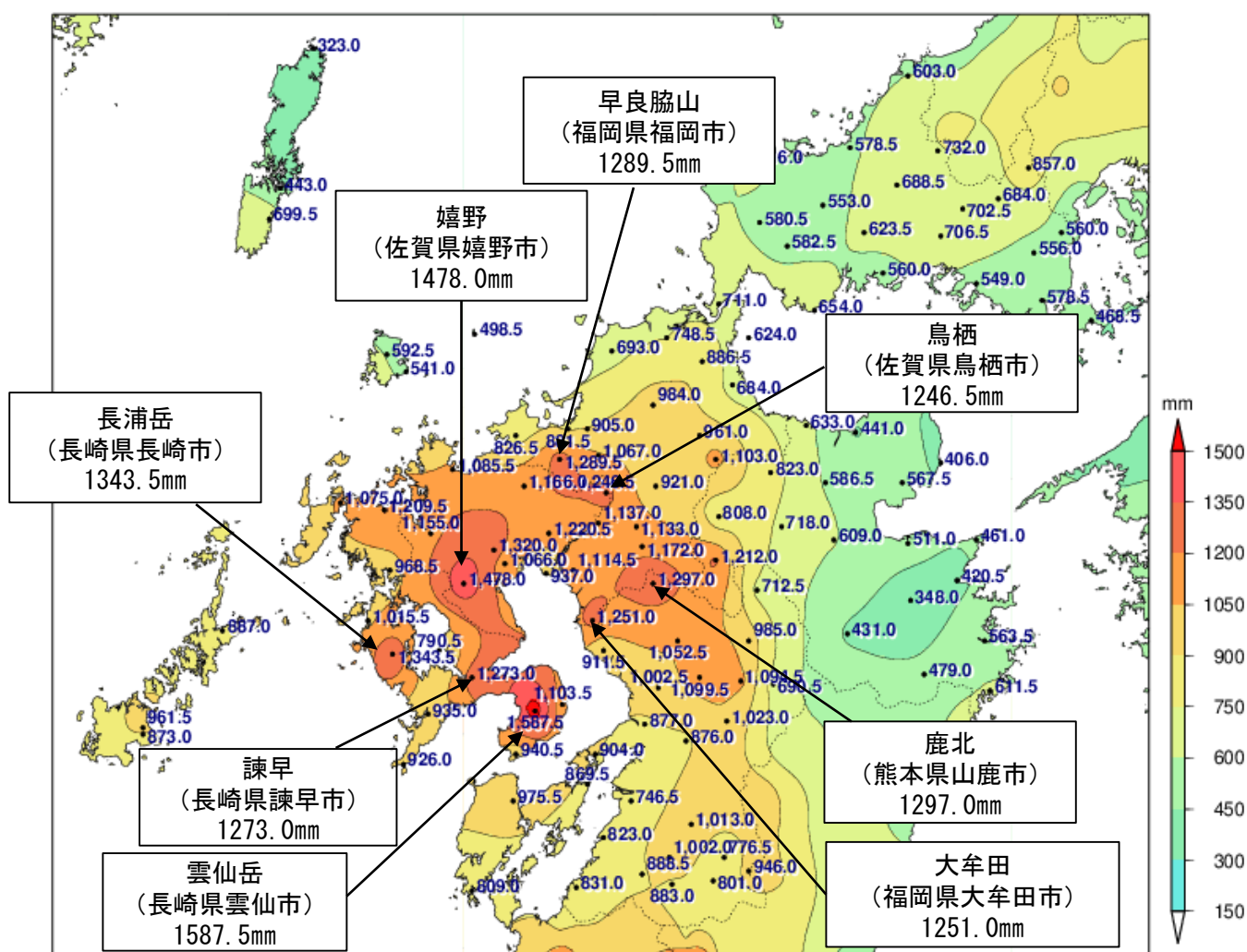


図 1 2021年8月の月降水量分布図

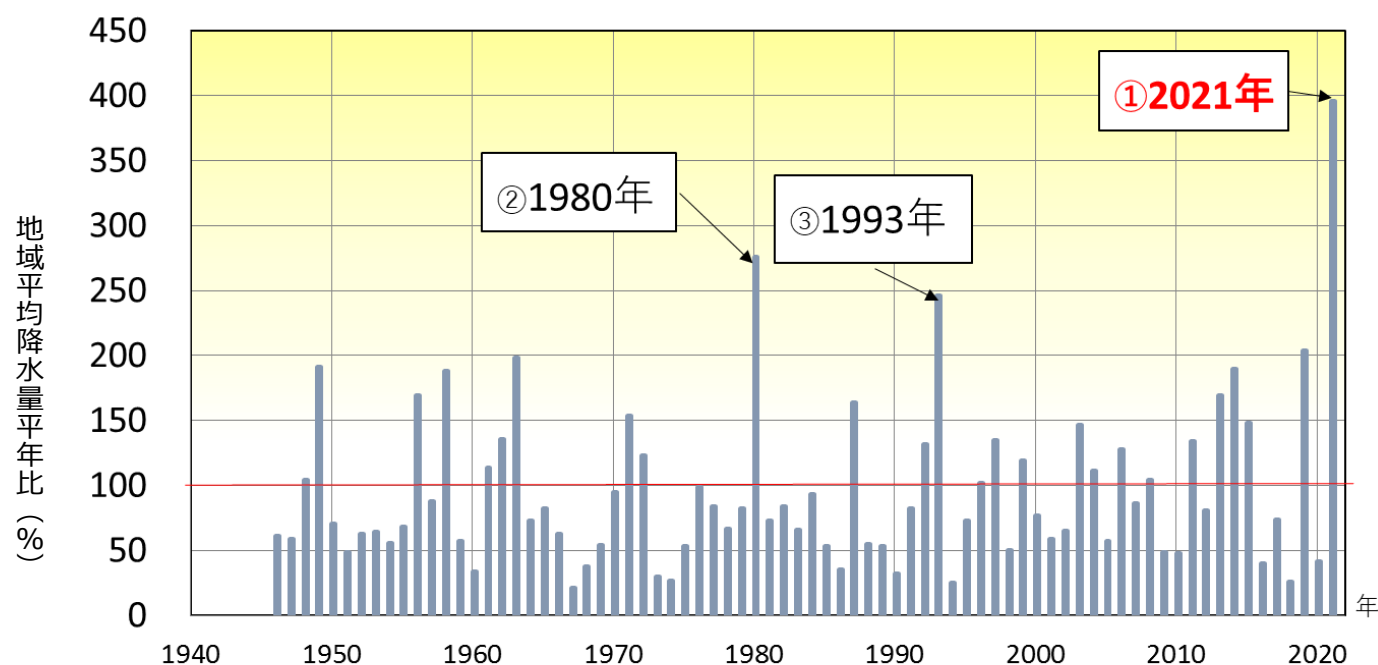


図2 九州北部地方（山口県を含む）の8月の地域平均降水量平年比※の経年変化
（統計期間：1946年～2021年）（西暦の前の丸付き数字は統計期間内の順位を示す）

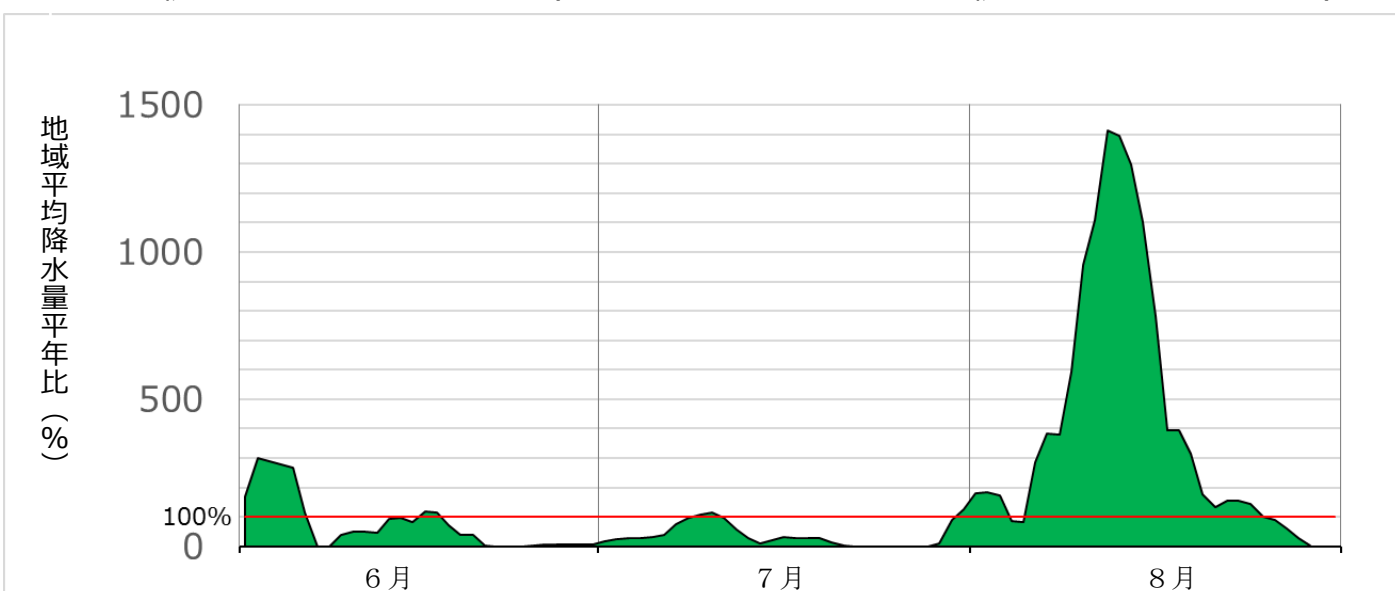


図3 九州北部地方（山口県を含む）の地域平均降水量平年比※の時系列図（5日移動平均値）（2021年6月～8月）

※地域平均降水量平年比は、いつもの年（平年値：1991～2020年の平均）と比べてどのくらい多い・少ないかを地域全体でみるもので、統計期間が50年以上ある観測所を対象としています。九州北部地方（山口県を含む）では、17地点における降水量の平年比を平均して算出しています。

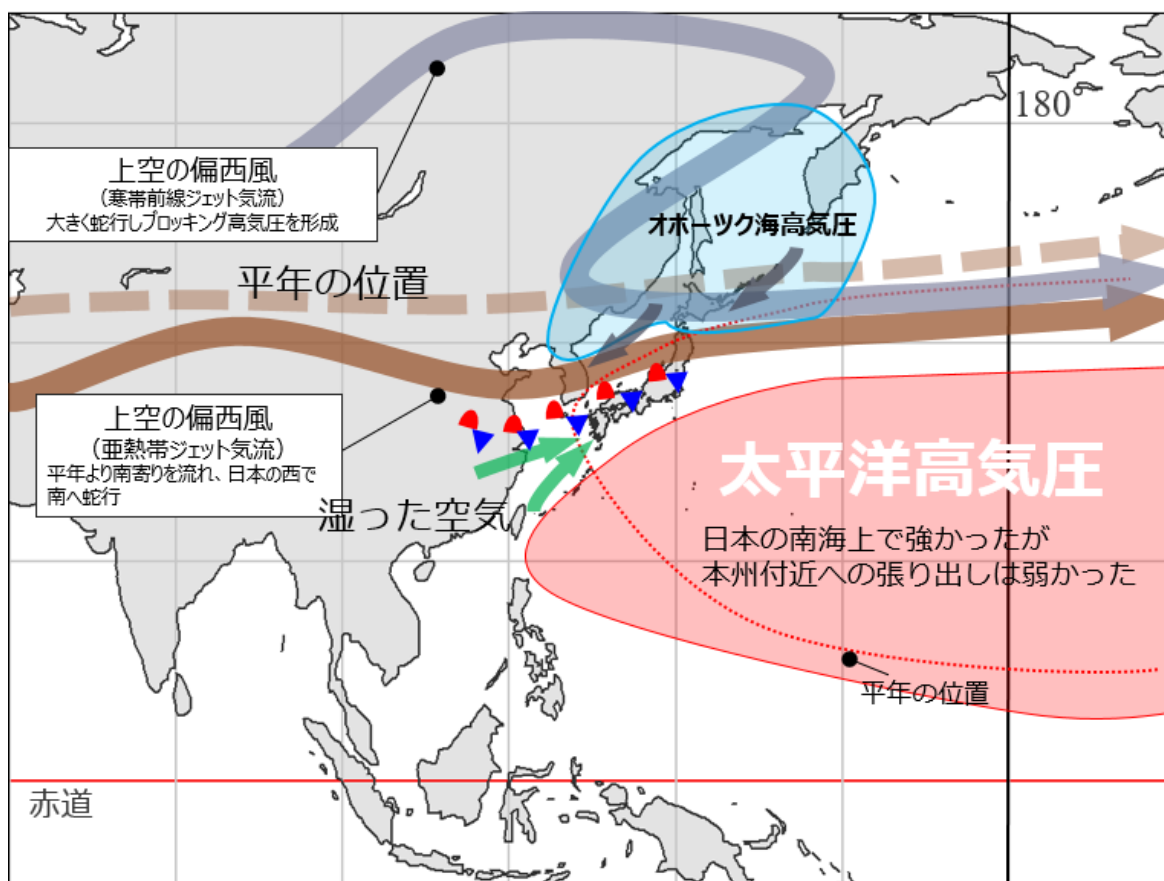


図4 2021年8月11日から17日までの平均的な大気の流れの模式図

【降水量が多かった要因】

- 上空を流れる偏西風は平年より南寄りを流れ、九州の西で南へ蛇行しました。
- 太平洋高気圧は、日本の南海上では強かったものの、本州付近への張り出しが弱かったことから本州付近に前線が停滞しました。
- 太平洋高気圧の縁をまわる暖かく湿った空気とオホーツク海からの冷たく湿った空気が本州付近でぶつかり、前線が顕在化し活動が活発化しました。
- 前線帯に沿って、中国大陸から流れ込む湿った空気と太平洋高気圧の縁辺を流れる南からの湿った空気が、日本付近で合流しやすい状況が続いたためと考えられます。